

身近な相談相手として寄り添う

「海津市平田地区民生委員児童委員協議会」

海津市は、岐阜県の最南端に位置し、西部・南部は三重県、東部は愛知県に隣接しています。人口約3万4千人、南濃地区・海津地区・平田地区の3地区に単位民児協があり、民生委員・児童委員68名、主任児童委員7名の計75名で構成されています。

平田地区は、海津市の北東部に位置し、西側は揖斐川、東側は長良川に挟まれ、南北に細長く広がっており、日本三大稲荷の一つと言われる「千代保稲荷神社」、宝暦治水の功労者である平田頼負翁の銅像がある「平田公園」のほか、長良川の右岸堤防沿いに道の駅「フレール平田」があります。

平田地区民生委員児童委員協議会

平田地区民生委員児童委員協議会は、民生委員・児童委員15名、主任児童委員2名の計17名で活動しています。平田地区民児協は、二つの部会(一部会8〜9名)で構成され、分野(学校・施設)に分かれて活動しています。

毎年5月の民生委員・児童委員の日、チラシ、ポケットティッシュを配布し地域でのPR活動を行っています。7月には、地元小中学校・特別支援学校と語る会の開催、市外研修会の実施、食事サービスボランティア活動への参

加、個々に地区サロン活動、地区社協への参加協力等の活動をしています。

民生委員・児童委員は、関係する団体との連携・調和が重要と認識しています。

部会の取り組み

第一部会は、学校関係を中心に訪問しています。地区には、中学校一校、小学校二校、公立認定こども園一園、私立認定こども園二園、特別支援学校が一校あります。日程を調整して訪問を依頼し、当日は校内や園内の視察とともに、子ども達の様子を見せていただいています。そして、校長先生、園長先生との懇談の場にて経営方針を伺い、さらに子ども達の普段の様子や先生方の関わりの話しをお聞きしました。民生委員・児童委員の側から見て感じたことや地域で見る子ども達の様子を伝えることで情報の共有をしています。お互いが話しやすい関係でいることが大切であると思います。

ここで、不登校の生徒が学校に復帰できた事例を紹介します。



▲学校長と語る会

中学校より不登校の生徒の件で連絡を受け、中学一年生Aさんの家庭訪問を行いました。当初は「あんたらと話すことはない」と冷たい対応でしたが、定期的に訪問を続けました。ある時、タブレットを持っていったので「ライン交換できる？」と話しかけたら抵抗なく交換してくれました。こちらからはラインで連絡をすることはしませんでした。生徒Aさんからラインで「来てよ」とか「いつ来てくれるの」と連絡が入るので、こちらで日にちを合わせて訪問しました。訪問しても勝手にゲームをしていたり、話しかけても「別に」と不愛想な態度で、こちらもどつしたものと考へることも多々ありました。二年生に入り、しばらく連絡がありませんでしたが、ある時、夜間の軽スポーツに行きたいとのこと、一緒に参加することもありました。三年生になると、今までより登校できるようになり、受験勉強も頑張るようになりながら支援した結果、私立高校に合格し、公立高校にも合格して、高校入学後は、部活動にも参加しているとのこと、自分で学校での居場所を見つけてくれたようです。

第二部会では、施設訪問をしています。介護サービス提供施設には、多様な施設があります。通いのサービスを中心とした地域密着型「小規模多機能型居宅介護施設」「古民家を利用した家族のように過ごすことができる施設」「永遠の施設ではなく、自宅復



▲施設研修「就労支援B型 自家製ワインのラベル張り」

帰できるようにと取り組む施設」「利用者自らが一日の計画を立てて行動する施設」「人生のご褒美として、生涯安心して過ごすことができるホテルのような施設」等々があり、各施設の特色や取り組みの説明等を受けました。

ひとり暮らし高齢者の方で退院したのち、一人での生活意欲がわかず、再入院を希望されたため、各種施設の説明をし、地域包括支援センターに状況を伝えつなぎました。その結果、親族の近隣にある高齢者のみが入居でき、出入り自由、食事場所も自由、見守りありのアパートに入居されたのですが、このような所は市内には無く驚きました。

今後は、初めて施設利用を考へている地域の高齢者の方々の相談に乗ることができるよう自己研鑽に努めていきたいと考へます。

これからも、支援を必要とする方に住みよい地域づくりに向け関係者と連携を図るとともに、身近な相談相手として寄り添えるよう、委員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。